

REPORT  
améri



# ぐるり庄原 カメラ レポート



## 育て上げた実りを収穫

### 庄原実業高校生徒が梨の収穫実習



トラックの荷台はいっぱい

8月8日(月)、庄原実業高校の生徒14人が、備北丘陵公園内にある国兼梨園で梨の収穫実習を行いました。

この梨は、授業の一環として春に人工受粉し、摘果や袋がけなどの栽培管理をしながら育ててきたもの。今年初の収穫となった当日、生徒たちはおよそ300kgの「八雲」という品種を収穫し、その後、採れた梨を販売するための選果作業と、校内の販売所での販売実習も行いました。

これから秋、冬にかけては、「幸水」や「20世紀」、「愛宕」、「新雪」といった品種の収穫も控えており、それぞれ校内の販売所で販売されます。



玉太りのよい梨を丁寧に収穫



## ふるさとの明日を築く若い力

### 庄原市成人式



市内全域から集まった多くの新成人の皆さん

8月15日(月)、新生庄原市で第1回となる成人式が、市民会館を会場に開催されました。今年度新たに成人となったのは、市内在住および庄原市出身の552人で、当日はそのうち405人が出席。式では、滝口市長が「若い力を、新たなふるさとづくりに発揮してほしい」と式辞を述べた後、竹本強太郎さん(比和町)が成人代表としてあいさつ。竹本さんは、「新市初の成人となれて光栄です。これから歩む人生を、若さと情熱でがんばりたい」と力強く述べました。

また式終了後の実行委員会主催のパーティーでは、再会を懐かしみ楽しく話をしたり、記念写真を撮ったりする姿が見られ、会場は盛り上がっていました。



あいさつをする竹本さん



## こどもたちが主役の夏祭り

### しあわせ館こども夏祭り

企画から当日の役員まで、すべての運営を子どもたちで作上げた「夏祭り」が、8月19日(金)、しあわせ館で開催されました。

放課後に昔遊びなどを楽しむ「遊びの達人教室」を主催する育児グループ「フルーツポンチ」が、町内の小中学生を対象に実行委員を募集し、約50人の実行委員が集まりました。夏休み前から準備に取り組み、出店や当日の運営などのアイデアを出し合い、看板などもすべて手づくりで準備。当日は家族連れや子どもたち300人あまりが、手づくりのイベントを楽しんでいました。主催者代表の上野恵子さんは、「準備の中で子どもたちに一体感や連帯感が生まれ、自分たちで作ったお祭りなんだという気持ちが伝わってきました」と、また実行委員の一人は、「みんなが協力してとても素敵な夏祭りができました」と瞳を輝かせていました。



みんなで手づくりの祭りを楽しみました



## 日ごろの成果を全国で発揮

### 小奴可剣友会

8月3日(水)に日本武道館で開催された、第27回全日本少年武道練成大会銃剣道の部で、小奴可剣友会の子どもたちがすばらしい成績をおさめました。小奴可剣友会は、昭和57年から活動をはじめ今年で24年目。週2回、小学生から高校生まで13人の子どもたちが元気よく練習に励んでいます。

全国大会で入賞された皆さんは次のとおりです。これからも頑張ってくださいね。



皆さんおめでとうございます!

#### ●団体戦

中学生の部

3 位 小奴可剣友会A

(立川翔太君・名越光希さん・立川友貴さん)

#### ●個人戦

中学生女子

優勝 立川友貴さん(小奴可中3年)

3 位 田邊芳佳さん(小奴可中1年)

中学1年生

3 位 立川翔太君 (小奴可中1年)

小学校5・6年

3 位 長谷葉月さん(小奴可小5年)

敢闘賞 立川 茜さん( " )

#### ●形の部

3 位 田邊円香さん(小奴可小4年)



## 日本語でこんにちは

### 第4回日本語学習者による日本語スピーチコンテスト



思いや体験を日本語で語られた皆さん

8月28日(日)、口和文化ホールヒューマンライツで「第4回日本語学習者による日本語スピーチコンテスト」が開催されました。しょうばら国際交流協会と口和公民館の共催で行われたコンテストには、中国・フィリピン・タイ・ベトナム・インドネシア・インド・アメリカ出身の17人が挑戦。

「私の日本語勉強法」と題して、庄原の人々との交流を発表した県立広島大学大学院の中国人留学生、恵寧さんが金賞を、広島大学大学院の中国人留学生の金順さんは、「皆さん友達になりましょう」という内容で銀賞を受賞。「言えなかったひとこと」と題して亡き父親との思い出を語った門田町の矢谷ナタリーさんは、銅賞を獲得しました。また、審査員特別賞には、来日3カ月の12歳のいとこ3人組、ケンケン・ラブリー・キャトキャトさんの3人が選ばれました。



銅賞を獲得した門田町の矢谷ナタリーさん





## 手づくりのお芝居を披露

### 和南原ふるさと祭り

8月15日(月)、和南原青年会やつまき一座が、2年に1度開催される「和南原ふるさと祭り」で水戸黄門漫遊記「夢一座人情世直し道中」を公演しました。



銭太鼓を披露する  
和南原子ども会の皆さん

この芝居は、水戸黄門一行が、悪代官に苦しめられる和南原地区の大根農家を助ける物語。今回は、三次市出身の演歌歌手である高山秋子さんも特別友情出演され、芝居の合間に6曲を披露されました。

脚本から演出まで全てをこなす和南原青年会やつまき一座は、本番当日までの2カ月余り稽古を積んできました。ふるさとへの愛に満ちた手づくりの芝居に、地域住民と帰省客はふるさとの良さを改めて感じる機会となりました。



手づくりの芝居に会場からは盛大な拍手



## 神話と自然神話を堪能

### 比婆山神話めぐりと護符の水

8月27日(土)、休暇村吾妻山などを会場に、「比婆山神話めぐりと護符の水」と題して、比婆山の史跡めぐりと自然観察が開催されました。



古事記の世界が感じられる神楽

第1部の比婆山ハイキングでは、地元越原みこと会の皆さんの案内で、比婆山神話に伝わる史跡を訪ねながら、ゆっくりと時間をかけて比婆山から吾妻山までを縦走。当日はハイキング講師も同行され、登山道沿いの草花や樹木について参加者へ解説されました。

また第2部では、休暇村吾妻山で比婆斎庭神楽の上演会を行い、休暇村の宿泊者を含む参加者は、古事記の世界を古式豊かに舞う比婆斎庭神楽を堪能しました。



史跡にまつわる神話について耳を傾ける参加者



## 秋の足音、実りの季節近づく

### 各地で稲刈り

赤とんぼも飛び始め、収穫の季節の訪れを告げています。総領地域でも、秋の訪れを感じさせてくれる稲刈りが始まりました。町内の田んぼでは、晴天に恵まれて黄金色に大きく実った稲穂を、コンバインがエンジン音を響かせて往復する様子が良く見られます。順調に進んでいる作業の中で、地元の方にお話を聞くと、「今年はええ具合に稲が倒れんでよかった」と、相次ぐ台風で収穫に苦勞された昨年と違い一安心されている声、また収穫を喜ぶ声などを聞くことができました。

西日本では、依然として厳しい残暑が続くといわれていますが、朝夕の涼しさや鈴虫の声など、秋は着実に近づいています。



順調に育った稲穂を収穫。今では少なくなった「はで干し」も見られました

